

平成23年度 第1回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成23年度 第1回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成23年7月28日(木) 午後2時00分～4時00分
3. 開催場所 木更津市民総合福祉会館(2階 第1・2研修室)
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席6名
金子馨委員、橘田昭雄委員、梶山林継委員、藤平量郎委員、三浦茂一委員、
須田昭平委員
教育委員会事務局5名
初谷教育長、石井教育部長、本多文化課長、浅野主幹、時山事務員
5. 議題及び公開又は非公開の別
議題1 役員の選出について(公開)
議題2 市史編集事業の進捗について(公開)
(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局(浅野主幹) 第1回木更津市史編集委員会を開催いたします。

本日の市史編集委員会は、實方委員、高崎委員、野中委員、鹿間委員の4委員から、都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告します。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により成立しております。また、会議は公開で行ないますのでご了承下さい。

なお、本来ですと、新委員もいらっしゃいますので、委員の皆様にも、自己紹介をお願いするところがございますが、本日出席いただきました委員におかれましては、既にごぞんじの方々ということで、省略させていただきますので、ご了承くださいようお願いいたします。

次に事務局職員に異動がございますので、自己紹介をさせていただきます。

石井部長ほか (部長以下、各自自己紹介)

事務局(浅野主幹) それでは議事に入りたいと思いますが、議長は委員長が務めることとなっておりますが、第1回会議ということで、委員長、副委員長が決まっておりませんので、決まるまでの間の議事の進行は、石井教育部長が務めさせていただくことといたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員 (異議なし)

- 事務局（浅野主幹） それでは、石井部長に議事の進行をお願いいたします。
- 仮議長（石井部長） 委員長、副委員長が決まるまでの間、仮議長を務めさせていただきます。
議題第1号 委員長・副委員長の選出についてを議題に供します。事務局より説明願います。
- 事務局（浅野主幹） 4ページをご覧下さい。附属機関設置条例の第4条により、委員長及び副委員長を置くものとし、選出は委員の互選とされております。そこで、委員長1名、副委員長2名の選出をお願いするものでございます。
- 仮議長（石井部長） 事務局より委員長1名、副委員長2名を選出願いたいとのことでしたが、いかが取り計らいいたしましょうか。
- 相山委員 事務局の考えは？
- 事務局（本多課長） 事務局といたしましては、前期の役員に引続きお願いしてはどうかと考えております。委員長を橘田昭雄委員、副委員長を三浦茂一委員、實形祐介委員に、お願いしてはどうかと考えております。
- 仮議長（石井部長） ただ今、事務局より委員長を橘田昭雄委員、副委員長を三浦茂一委員、實形祐介委員という提案がございました。委員の皆様には、いかがでございましょうか。
- 各委員 (異議なし)
- 仮議長（石井部長） それでは、委員の皆様には異議がございませんようでしたら、ご承認の拍手をお願いいたします。
拍手多数と言うことで委員長、副委員長選出の案件につきましては、決定いたしましたので、仮議長の職を解かせていただきます。
- 事務局（浅野主幹） それでは、委員長、副委員長が決定いたしましたので、ここで、橘田委員長よりご挨拶をいただきたいと思っております。
- 橘田委員長 橘田委員長挨拶

事務局（浅野主幹） ありがとうございました。それではこれからの議事進行は、橘田委員長をお願いいたします。

橘田委員長 これより議長を務めさせていただきます。
それでは、議事を再開いたします。議題第2号の「市史編集事業の進捗について」事務局より説明願います。

事務局（浅野主幹） 議題第2号「市史編集事業の進捗について」説明させていただきます。
（市史編集事業の進捗について説明）

橘田委員長 事務局より、議題第2号「市史編集事業の進捗について」の説明がございました。はじめに、なにかご意見・ご質問があればお願いいたします。

須田委員 予定はどうなっているのか。原稿集めはおよそいつまでか。期限はもうきているのか。

事務局（浅野主幹） それは、9月末ぐらいをめどに可能な限り集めたいという姿勢で、対応していきたいと思っております。そのあとに実務的な編集ということで皆様にご相談申し上げるかたちになろうかと考えております。

須田委員 出版は？

事務局（浅野主幹） 来年3月中に原稿は原稿、写真は写真、表は表というかたちで全部取りまとめます。新年度の4月に入りましたら、たぶん金額的に張るんじゃないかなと思いますので、印刷業者の選定をして、それが決まりましたら3月までにまとめました原稿を印刷します。その後初校、2校など推敲を重ねまして、10月の中旬の納本というような計画で考えております。式典のほうがおそらく11月3日になろうかと思っておりますので、最初に参加者に記念の品物ということでお配りして、終わりましたら広く市民にも配布するというような大きな流れになっています。

須田委員 ありがとうございます。じゃあ、まあまあですね。

橘田委員長 他にございませんか？9月の末までにおおまかな原稿が出ますか？

事務局（浅野主幹） そのような方向で、これからまわっていきたいと思っておりますので。

橘田委員長 前の編集会議でもその話題になっていたけれども、夏休みに先生方にねじりはちまきで書いてもらわないと間に合わないですね。9月末としても後2ヶ月しかないですけど。私どもとしても、その後の状況がどう進んでいるかまったくわからないですね。

事務局（本田課長） 今の件なのですが、現在は49%という大変遅れた推移になっておりますので、今日の会議を終わりました、早急に担当から文書なり、また何うということで伺っております。9月末とはいいましたけども、9月末にその件でもう一度会議を設けたいというふうに考えておりますので、その前、上旬くらいまでにはなんとかできる限りの原稿を一回揃えたいと思っております。早急に動くといえますか、事務を進めていきたいと考えてますのでぜひよろしく願いいたします。

橘田委員長 藤平さんのはね、この資料見るとほとんど出てますね。

藤平委員 はい、でも一部、たとえば干潟の植生図はイメージ図でこれから固めていくんです。そのほか写真もじんわりとできたら。まあ外観は最初に出した原稿です。まだ検討中ですのでもう少し変わると思います。

一番最初の森の写真がありますがこれは富士山の入った干潟・・・自然の一覧の表紙にありますこの写真もすでに事務局のほうに送ってます。

橘田委員長 はい、この写真をね。これはどこの写真ですか。

藤平委員 これは馬来田かな。

橘田委員長 馬来田かな。これ音信山のところかな、とんがったところはそんな感じもします。

自然班は積極的に早く出来上がってますね、新しい写真も入っておりますし。他の編集委員さんは。三浦さんのところの近現代の状況は？

三浦委員 そうですね、さっき事務局からの話もありましたが、出してある原稿でもここに、載ってないのもあるんですね。

事務局（浅野主幹） 若干ございます。

三浦委員

たとえば、会議資料の10ページを見ていただきましてね、近現代のところの近代木更津の経済⑤、木更津まちの誕生とあります。これは提出してあるわけなんですけど、2ページですか。提出してあるはずなんですけど、落ちているものもあります。ですから、もう少しパーセンテージは上がると思います。

高崎先生は、若干出ていないところもあります。ただ近現代で問題なのは、やっぱり写真ですかね。地元にある歴史を語るような写真ですね。そういうものを収集するという点ですね。執筆者の方は現職でいらっしゃる方も多いので限られた時間しかないわけです。そこで前々から意見としては出てるはずですけども事務局が強化されてですね、やや組織的に、写真を中心とした目で見ると、このような材料を集めないと、本文をある程度原稿として出したとしても未定稿のままという感じをもちます。

僕自身も書いてみてそうなんですけどね。僕のでいきますと木更津県から千葉県へ地租改正の実施、重城保の生涯、木更津まちの誕生、それぞれ書いてはあるんですが。たとえば地租改正の場合ですと、地租改正をやる前に田畑の面積を測らなくちゃいけない。それを測った道具の写真とかですね、それからその結果できた地積図のもとになるような丈量の図ですね。まあ、そういうふうなもの、カラーのものもなかなかいいのがあると思うんですが、そういうものの写真を撮ることを全然やっていないわけですよ。それもすべて執筆者に任されているのかと非常に不安といいますか、そういうことです。

またそのほかの方も同じような問題はありそうですね。

高柳近辺の旧家にちょっと聞いてみるとか、この自分のカメラで撮るとかはやったんです。が、ここの範囲に載けるためには、ぴしっとした写真をつくんなくちゃいかんです。そうすると、どういうふうにしてそれをつくるか、自然のように非常にそういうものを含めてチェックできているのと、我々のような第一次素稿みたいなそんな感じの原稿なんです。この班はね。ということで、そういう問題があります。だから、事務局強化ということを望みます。

橘田委員長

事務局強化を図らないことには、こういった資料収集がまったくできないという状況ですね。何か聞いても、資料収集して、写真収めて、ここに載けるまでには大変なことになるわけなんです。

三浦委員

はい、技術があるひとが撮ってやらないと。これは図版が多いものでしょ。だから、きちんとしたものでないと。

橘田委員長

去年は資料、カラーだったものね。

事務局（浅野主幹） 出版にあたっては原則全頁カラーで考えております。

橘田委員長 それが出てこないものにはしょうがないもので。先生方も近世だって、中世だって同じことがいえるんだろうけど。事務局のほうの資料収集のスタッフと
いったってなかなかいないんだろうけど。どうしたらいいのかな？

事務局（浅野主幹） こちらといたしましては原稿提出とともに、写真のほうもいくつかこういう
写真がよろしいんじゃないかをご提案を一緒にいただいておりますので、事務局で撮れるものについてはそれを撮ってきてほしいというふうに考えております。
原稿の提出とともにそちらにも力をいれていきたいというふうな状況です。すでに既存のものであるような場合は、その写真の借用を交渉して確保していき
たいと基本的には考えてます。

橘田委員長 今まで出て、我々が目にしたような資料とともに、うずもれた資料、できたら
出てくるとありがたいと思うんだけど。各執筆する方々、編集する方々の能力の問題もあるんだけど。たとえば、こういうところにこんな資料がある
とか、状況把握するのはどうなっているのか。

三浦委員 では、今度こっちのほうの資料、近現代の第5章8頁を開いてください。三
「年貢から地租へ」となってます。この8頁の一番の写真が上根岸村反別高永
木更津県書上帳となっていますが、原稿には、どこに所蔵されているこういう
ものということをもメモとして書いて、事務局には出しているんです。そこに行
けば、これのちゃんとしたものが撮れるんですが、そういう撮影はしてないの
です。

次に武内長三之墓碣銘とありますが、これも壬申地券の前段階で武内長三と
いう村長さんが行政にはせまられるし、村民には反対されるしで切腹して果て
るわけなんですけど、それを村民が哀れんで頌徳碑を建てる。それがきれいに
残ってるんでこれをぜひ入れたい。これは高柳にあるお寺なんですね。そうい
うふうなものもびしっと見栄えよく撮っていただきたい。

また、3番目の佐久間帯刀が全部袖ヶ浦の博物館にあるんです。上根岸村、
これは壬申地券で明治5年の地券ですね、これは上根岸の区有だったと思いま
すけど。調査に実際行きましたから上根岸が多いですかね。それで、目録が
できていて、市の人たちに付き合っていて見ましたんでそれが多くなっ
てますね。まあ、他から出てこれば、他の村も改正地券であればそれはそれで
別の村を使えといえたわけです。というような状況です。一応あり場所はわか
るわけです。

橘田委員長 これ今事務局のほうにはこういう情報は？

事務局（浅野主幹） 今の情報はいただいております。それをもとに、事務局のほうで撮りに行ってという予定であります。

橘田委員長 今見たのは事務局のほうにいっぱいいてるわけ？こういうところにこういう資料がある、これを用意してくれとか。

事務局（浅野主幹） はい。

金子委員 単純な質問ですが、図説木更津のあゆみの基本的な構想で項目があるでしょ？執筆者に依頼するときにはあなたはこのタイトルで、この字数・範囲のかたちでお願いしたのですか？

事務局（浅野主幹） かたちのにはそういうふうになってます。実際にあがってきたものが・・・

金子委員 僕らが書く場合は基本的にそんなかたちで書くと思ったんですけどね、でも列記してみると・・・

事務局（浅野主幹） ところが若干ちがうところもあります。そのあたりはこれから詰めていかなくちゃならないと思っています。

金子委員 最終的にはこの本と同じようなかたちの原稿用紙っていいですかね、こんなかたちでなんていいですか、この頁数できちっとしたのを作んなきゃいけないわけでしょ？今も膨大な資料になっちゃってますけどね。

それと、脱線するかもしれないけど、図説ってタイトルが強く出ますからやはり見やすい、そのことについて本を作成するベテランの人に見てもらうこともよりいい図説には必要ではないかと思えますけどね。

橘田委員長 写真があって原稿がでてきてるんだけど、執筆者が考えてるのと一般の人が見て・・・市民のなじみとかアートのなね、そういった美的感覚は、もっと読みやすくする専門の人たちに見てもらうことも大事じゃないかなということを金子さんがおっしゃっています。執筆者の考え方もあるだろうし、編集は編集でデザイン化していくことも大事と考えていく必要があるのかな。

須田委員 結局、これは本にまとめるときに編集プロダクションみたいなかたちで編集の一端を印刷会社に見てもらってことになりますか。

事務局（浅野主幹） 基本的には、事務局のほうで皆様の協力をいただきながら大枠は作っておくと。個別な、最後の点についてはたぶん印刷の作業のなかで見ていただくということになるかと思います。

橘田委員長 出版先にも写真とかデザインとかお願いする意図はあるわけ？

事務局（浅野主幹） 今のところちょっと・・・

橘田委員長 事務局が全部つくって、「これあんた印刷してよ」っていうかたちになる？

事務局（浅野主幹） そういうことを想定しています。

橘田委員長 ああ、そう。

事務局（浅野主幹） 微細なところは印刷業務にお任せするしかないと思っております。細かいことだと、写真のキャプションの位置関係とかですね、このあたりは事務局のパソコンでは動きがとれませんので、ちょっと見栄えが悪いと思うんですけど。このへんは実際印刷に入ったときにここにこういうふうにキャプションいれてもらいたいというふうなかたちになるかと思うんですけど。

金子委員 私は長く小学3，4年生向けですけど「私たちの木更津」の編集をしました。編集っていうと結局、写真のこともありますが文章関係もね。編著ってのは、それぞれの文章に特徴がありますからね。小学校の場合だと国語の専門教師に全部みてもらって最終的にそんなことしなくてもいいんですよ。やはりある程度非常に見やすさっていうのかな、写真のこともありますがまずは全体的な文章読んで、もし余裕があれば、専門家に。非常に読みにくい文章もありますからね、最終的にはそういう点についての配慮ができればね。

橘田委員長 私も読んでないからわからないんだけど、それぞれが専門家の皆さんが書いた文章ですから、一般の市民の皆さんがこれを読んで素直にわからなくても考えればわかるように。金子さんがおっしゃたように、それぞれの執筆者の考えもあって、必ずしも皆同じように文章書いてくるわけではないですね。

けど、市民のためにどのような文章とか、どのように言葉を考えていったら理解されるかとか、木更津の昔というようなものがこんなかたちにするとよくわかるんだよとか、そういうところは考えていかなければならないし、直せるところは直していかなければならない。

執筆者には誠に申し訳ないですけども、そういう配慮するのは必要だね。

藤平委員

専門家というのはね、正確さを重要視されるから、正確であっても読みにくいというのはあると思います。ですから一般の目で見てもこういうものが興味深いとか何かそういうのを合わせる必要があるのではないか。

橘田委員長

そうですね。やっぱり市民向けにつくるわけですから。

相山委員

最終的にはレベルの問題で高校生クラスとかいろいろあるでしょうから、それはもう一息した段階で読み直してみて、かなほどの程度調整が必要なのか等、そういうのは皆関係してきますね。私が今ちょっと見させてもらったけど、「こうずけまえはしはん」で書いてあっても上野前橋藩でなっていて、今の人たちには読めないから。下総佐倉藩あたりは仕方ないと思うけど、下総の国とつけるかどうかといったような作業は場合によっては必要になってくると思うんです。それこそ編集的な状態で見えていくことが必要になってくる。

だからとりあえず原稿を集めていただいて、その段階で文章の難易度とか読みやすさ等についてまた検討しなければいけなくなるだろうと思うんですよ。写真もある程度大きさをとるとなると、頁数をあまりくるわせないよということになると思うんだけど。大きくしたほうがよい写真がでた場合は文字を削るか、これは見開き2頁が基本になってるようですから、2頁の次は4頁にするか、あるいは近くでかみあわせて3頁3頁でいくのか考えていかなければならない。その範囲で近代の写真で活字になってるものでも非常にいい写真ならもらうしかないし、元版があるなら元版もらうし。そこらへんのことは既に、木更津市史、木更津町史あたりで使っていていいのがあれば使えるでしょうね。

また、白黒だけだとつまらないからセピアにしてみたりいろいろやれば、そういう操作できますから。ただ、三浦先生がいわれたのは、できるだけ写真はまとめて撮影してもらったほうがいいと思いますので。それはそれなりにこことここを今度いついつ撮影するようなことと言われたらいかがですか。そうすれば、事務局側も年中ってわけにもいかないでしょうから。高柳地区なら高柳地区の撮影はいつごろか伝えて、どことどこはどうしても撮ら

なきやいかんというような言い方すればよいのでは。

橘田委員長

ありがとうございました。

實方さんなんかもお考えになってる面もあるだろうけど、実際執筆しているの課題、問題ってのはやっぱり資料との問題が引かかってくると思うんだよね。でも資料が手持ちにあるわけじゃないから。それぞれ研究したり調べたりしているなかで、皆さんがおっしゃるように現実に写真が手元にあればまた書き出しがいいんでしょうけど。こういう状況にないんだろから。こういうところはどうなんですか。浅野さんにはたくさん意見やご注文やらあるの？

事務局（浅野主幹）

今のところは原稿をいただくなかで、たとえば原始・古代のあたりですとこのあたりは県史に載ってるからその写真を使ったらどうだろう、というふうなことで情報提供してもらってます。そして、ある程度まとめて一覧表にして所蔵者のほうに、たとえば原版があればそれを提供してもらおうというふうなかたちで対応しようかなと思ってるところでございます。

そのこともございましたので、昨年、お手持ちの古い写真ありませんかと広報させていただいて、いくつか提供してもいいよというお話は何っています。ですけども、今までのいただいている原稿のなかでこれはぴったりだというふうなものはまだございません。そういったものがあれば先生方に提供していきたいというふうな状況です。

橘田委員長

執筆者の方から注文が相当でてるの？

事務局（浅野主幹）

今のところはいくつかは出ております。

たとえば、木更津甚句のところで、ここにこういう割付けでいただきまして、木更津甚句の碑が新しく立っておりますので、その碑については事務局に撮って貰いたいというふうな情報は入っております。

橘田委員長

どこかで股引きがどうかこうとか耳にしたけども、具体的なそんなものもたくさんでているでしょ。

事務局（浅野主幹）

それぞれ原稿を頂いた段階のときに、そういう要望というか、心がけてくれないかみたいなことは承っています。

橘田委員長

股引きは民俗のほうからでてきてるんだよね？

事務局（浅野主幹）

股引きは民俗のほうからです。

具体例でいきますと、民俗に衣食住の衣という項目があるんですけども、このあたりにふさわしいそういうふうな手持ちの写真はないだろうかという話は入っております。全体にまだ通し番号がついてないのでご案内しづらいんですけども民俗の2番目といたしますか。

橘田委員長

はい、ほかに誰かご意見ご注文なんでも結構ですから

三浦委員

戊辰戦争の、近代の最初のほうですけど、4頁となっております。戊辰戦争と木更津のところにですね、4頁の中段の5の2 1旧幕府軍の米・金の徴発とありますね。徳川撤兵方会計より高柳村宛て、玄米300俵受取に付、重城家文書がありますね、その写真を入れたいというのが執筆者の希望なわけです。これは高柳村の重城家の文書なんですね。重城家の先祖が中心になって300俵を撤兵に出しているわけなんです。この文書は重城保日記という全10冊のがありますよね、あれには載っているんですが現物が見つからないんですよ。つまり、図書館にない。重城保日記全10冊ね、非常に偉大な実績だと思えますがそこに載っている写真版が木更津の図書館にあるとは限らないのです。これは重城家にある可能性もある。編集されてるが、全部図書館に移っているとは限らないです。

10冊の活字版の重城保日記ね、あれを作るための資料と図書館に入っている資料とはちょっと違う場合がある。というか、図書館のほうが少ない。それとね、明治45年まで保さんは日記をつけていました。明治45年の日記は重城家に原本がある。記念として一冊だけはとっておきたいといって図書館に寄贈しなかった。ということで活字になってるものは45年まで載ってるわけですよ。この場合は所在がわかるんですが、口絵なり、途中の扉の写真なりがいろいろ入ってますが、図書館にはそういうものはないんだな。

橘田委員長

菱田さんも良蔵さんも亡くなって探しようがないんだな。

三浦委員

場合によると良蔵さんや菱田家にあるかもしれない。市史編集委員会ならば調査できるはずなんです。それがやりたいんです。つまり、写真を入れるためにはなるべくいい写真を。菱田家調査と重城家調査を編集委員会としてやりたい。それが僕の希望です。

橘田委員長

なるほどね。浅野さんそのへんはどう？そういう意見は？

三浦委員

結局重城家の場合だと息子さんですよ。重城病院の医院長さんは現役でお元気ですから。だから、それは市でないといけないですよ。大変なことをやらないとダメなんです。菱田先生宅も調査したいです。ちょっとは接触しているんですけども、あるかわからないです。これは、ある人数で行ってよろしいですかでちゃんと見させてもらう。で、プライバシーにかかわるものは発表しないし、条件をつけながら市を信用してもらいながら調査しないといいものがない。書いてみて思いましたけど。

この文書なんかとてもいいわけですよ。幕府方に協力しているわけですからね。それで玄米300キロですからね。あるいは上野の彰義隊ね、敗戦するわけでしょ。江戸のほうに、火が見えたとの記述があって非常に残念がっているし。木更津県になっていく間にスムーズに官軍方になっていく、これが普通の流れですね。このようなことがリアルにでてますね。なかなかいい資料なんです。活字があるから読みやすく使いやすいわけです。本当は原本で読まなくちゃいけない。

とにかく11月3日には配布できなくちゃいかんわけです。それに合わせられる範囲でしかやれないわけだし、間に合わせるつもりなわけです。皆さんもそうだと思います。ですが、今言ったような課題はたくさんあるんで、今から80周年記念を目指してですね、そういう基礎調査がやっぱり必要なんじゃないかな。

藤平委員

だけど、まだ原稿がでてないものが多いわけですよ。

橘田委員長

49%ですからね、半分以上出てないってことになる。まあ、近世と中世、實方さんがいないからあれだけでも。まあ、いろいろ意見出してください。

三浦さん、江戸幕府の終焉から現在の木更津のつながりはうまくいってる？

三浦委員

近世がでてきてないからあれですけども、構成上からは構成表の10頁の一番上の欄に江戸幕府の終焉ってありますよね、それで⑤の「幕末の木更津一米価高騰と打ちこわし」っていうので筑紫さんが書くわけですよ。それに続けて近代で一番最初の戊辰戦争と木更津を筑紫さんに書いてもらうことにしてるわけですね。つまり、近世と近現代のつながりをよくする意味もあって筑紫さんが両方うけもってますね。終わりと始めを一人で書くことにしてるわけです。

ですから⑤のほうは幕末ということで社会状況といえますかね。そんなのを中心にして、近代の戊辰戦争と木更津はいわば政治となっております。

梶山委員 木更津県庁の間取図ってのはある？

三浦委員 あるんですけど、それもまあ入れたいですよ。いくつかの資料を本当は比較してよさそうなやつをね。

梶山委員 写真はないかなあ？

三浦委員 前は収集して、伊藤亀之助さんのところに何枚かあるはずなんですよ。伊藤さんにあるもののコピーが木更津図書館にあるとそういうことはわかるんですがね。やっぱり写真となるとね、原本に到達したいわけですよ。

梶山委員 木更津県関係のものは県史にはないだろうか。

三浦委員 それこそ国のレベルにあるんですよ。国立公文書などに公文録とか、移籍の届けを出したものが残ってるわけですね、そのコピー、写真版が文書館にきてる。収集しているわけで、そこまでいけば見られる。

橘田委員長 陣屋の平面図かなんかどっかで見ましたね。現況をみたら、これは何だっ
てなっちゃうけども。

梶山委員 基本的には書類は千葉県へ持って行ったかもしれない。

藤平委員 亀之助さんのところにあることはある。文化展で出してくれて私は見ているんだけど。貝渕の町並みと海岸と。

三浦委員 そういうものはぜひ撮りたいじゃないですか。奥様の許可を得て家捜ししないと。

橘田委員長 息子さんはいるんだけどな。

三浦委員 あと旧家には曾根先生っているでしょ。桜井の本家ですかね、あそこにも古い写真があるんですよ。2, 3冊アルバムがあって近いうちに見に行くことになってるんですよ。曾根さんとお邪魔しようと思ってるんですよ。
それからさっきの切腹した武内家も調査しまして写真撮ってあります。切腹したときの短刀だとか遺書だとかそんなものがあるはずなんです。でもなかなか武内さんに出していただけなくて。

武内家の切腹の話で思い出しましたが、あの碑文ですね、銘文を漢文で書いたのが森本とおる。本来なら重城保が書かなくてはいけないのですよ。どうも私が世話しなかったから切腹してみたいなところから、遠慮したんだと推測がされています。大体そうだと思いますけども、木更津図書館にある重城家の文書のなかには織本東岳と重城保が碑文について相談している記事があるんですよ。これは非常にめずらしい。この男はまずいんじゃないか。推敲するんです。

橘田委員長

字は重城さん書いたかい？

三浦委員

わからないです。あれも立派な碑ですよ。木更津県のお膝元でもって木更津県の租税政策に対する切腹というね、あったわけですからね。それで全国の新聞にも載りますから。県からすると非常にショックだったみたいですね。

橘田委員長

いかに地租改正というものがね難問であったかというね、我々は簡単に話しちゃうけど。ほかになにかありますか。

三浦委員

近世は全くでてない？

事務局（浅野主幹）

まだ原稿としていただけてませんので。

橘田委員長

いろいろ大変なんでしょうね。

三浦委員

現職の方が多いでしょうからね。

橘田委員長

ほかに課題・問題ございませんか。

梶山委員

事務局で大変かもしれないけど、参考資料一覧的なものそういうのを作っておくといいかもしれないですね。今後も何かで使えると思いますんで。いわゆる木更津市史をはじめとする市で出したものとか、あるいは港町ので大正4年の御大典記念写真帳があるんですよ。それが1冊になって配ってるはずだからかなりあるはずなんだけど、私が見たのはたった1冊しかない。それにはもうその当時の公共施設などの写真が入っているんですよ。たまたまその頃の小学生は記念撮影に全員入っているんですが。まあ、大正4年ごろに1冊作っているというのは町村別にやってる可能性があるんで、木更津町にあるかな。そんなことも含めて何か今後使える資料があればはじめはメモ

程度でいいと思うんですけどね、それは図書館がやってくれば一番いいの
だけど。

三浦先生、文人関係の本が挙げられてましたよね、わたしの木更津地図と
か。木更津文人関係、郷土史関係は図書館で集めてあるかもしれないけど、
基礎資料になるようなものを集めておいたらどうでしょうかね。

橘田委員長 それは必要なことですよね。どこで集めたってかまわないんだもの。

梶山委員 郷土資料室で集めてくれれば一番いいんだけど。

事務局（課長） いわれました資料については一覧表を作って何かの機会に出せるようにし
たいと思いますので。

梶山委員 ぜひそうしてもらえると。いずれ役にたつでしょうから。公共機関で出し
たものでもわからなくなったものね。中央図書館の郷土室的なところで割合
い集めているみたいだけどね。パンフレットにいたるまで結構集めてますよ
ね。コピーでも集めているし。

橘田委員長 集めるには専門家がいないと。かつて教育センターで教育指導の募集をし
たときもそうなんですけど、専門の方からいって初めて集まるんですよ。と
ころが人員削減で人もいなくなっている。

梶山委員 教育関係も結構でてますからね、県下だと。

三浦委員 木更津の資料室は郷土資料室は充実してますよね。2階が資料庫になって
ましてね。

梶山委員 比較的古くからあるからでしょうけど。

三浦委員 近現代の人たちが原稿書くのには木更津市立図書館に通って書くと。

梶山委員 木更津の図書館と県の文書館の資料の関係で大体集まってくる。

三浦委員 それを地域に持ってくる。やはり写真を、地域で探して結び付けないと。

梶山委員 私は良く知らないですけど、木更津は古い写真館、つまり明治・昭和でもい
いんですけど写真館はどうですか。

橘田委員長

いろいろ集める方がいて、博物館でも集めてみたんですけど写真がなかなか集まらない。集めた写真のその後はわかりません。持ってきてくれたのは保存するようにしてますけども。市への移管もありましたから、わかりません。高崎さんが本を作るときにも一生懸命集めておられました。比較的博物館に残ってると思うんです。ただ整理ができてるかどうかな。

梶山委員

熊本には、明治の西南戦争以前からの写真が残ってる。ちょっと特殊ですけど。

三浦委員

お茶屋さんの石川さんのお宅も写真がある。集めたものか、家に伝わったものか、ありますよね。場合によっては、選んでこれをお願いしたいといえませんが、協力いたしますというお話がありました。

橘田委員長

石川さんのご本家が伏見屋さんといって、その倉庫にあったんですよ。私が博物館にいたときに倉庫を見に行っただけですよ。いっぱいなんとか保存しないといけないと思ったけど、私は異動になってしまったから。そのうち聞いたら伏見屋さん、整理したっていうんですよ。私が蔵の中入ってね、これは大事だといって。あそこは旅館だから御礼の手紙など結構あって、この手紙を調べていったら貴重なものがいろいろ出てくるだろうなと思って。これは博物館の皆できて資料として保存したほうがいいなと思ったけど、できませんでした。石川さんのお嬢さんにも移っているものがあると思います。

三浦委員

石川さんのお父さんは号を持ってるんですね。伝記といいますか回想記っていうのかな、それを息子さんたちが編集したものが本になってますよ。それのもとになっているのはね、お父さんの書いた日誌なんですよ。膨大にあるんです。それを奥様が大切にしてきたと。現在もあるのではないのでしょうかね。その一部が活字になって回想記に載ってますけどね。

あの方は文章書くのが好きな方ですからね。やっぱり西上総文化会の創設のころの幹部の人。だからああいう方の日記を将来なくさないで80周年には使えれば、非常に立派ないい資料といただけますか、市史ができるということですか。そんなことを石川さんと話しまして。大いに協力しますとおっしゃってたので。ということで、すこしずつ発掘しつつある。

橘田委員長

木更津って結局老舗に行けば、でも、改築改築でなくなりつつありますけど、他にご意見ございませんか。いろいろご意見出していただきましてあ

りがとうございました。各委員さんの意見も本日のところは出尽くした感がございますので、本日の協議はこのあたりで終了いたしたいと思えます。

事務局には、本日の意見を踏まえ、事業の進捗に努めるようお願いいたします。その他、事務局から何かございますか。

事務局（浅野主幹） 次回の会議を9月下旬ころに開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

橘田委員長 ただ今、事務局から次回会議の開催予定の連絡がございましたが、よろしくお願いいたします。それでは、本日の議事は、以上で閉じさせていただきます。

事務局（浅野主幹） 委員の皆様方には、長時間にわたりご審議をいただき誠に有難うございました。以上を持ちまして、第1回木更津市史編集委員会を終了させていただきます。有難うございました。

平成23年7月28日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘田 昭雄